

メカジキ 南大西洋

Swordfish, *Xiphias gladius*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近一年間の動き

2013年に資源評価がICCATの科学委員会(SCRS)で実施され、本系群は乱獲状態にはないことが示された。SCRSは、データ不足による不確実性を低減する十分な調査研究が実施されるまでは、本資源の年間漁獲量を前回推定されたMSY(15,000トン)以下に抑え、小型個体の漁獲量制限を継続するよう勧告を出した。2016年に資源評価が行われる予定である。

- 生物学的特性**
- 寿命：調査中
 - 成熟開始年齢：調査中
 - 産卵場：熱帯～亜熱帯
 - 索餌場：アフリカ沿岸・ウルグアイ沖合水域
 - 食性：調査中
 - 捕食者：調査中

利用・用途

刺身、寿司、切り身(ステーキ)、煮付け

漁業の特徴

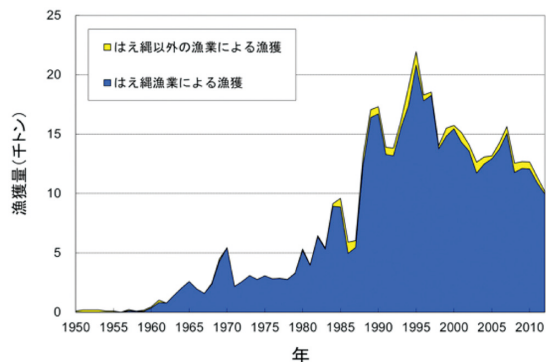
1980年代末まで主に日本、台湾、韓国のはえ縄の混獲として漁獲されており、総漁獲重量は1万トン未満と少なかった。1989年から本種を目的にはえ縄の浅縄操業を行うスペインの船団が参入し、総漁獲量は1995年には21,930トンへと急増した。その後、漁獲量は減少し2012年には10,180トンとなった。

漁業資源の動向

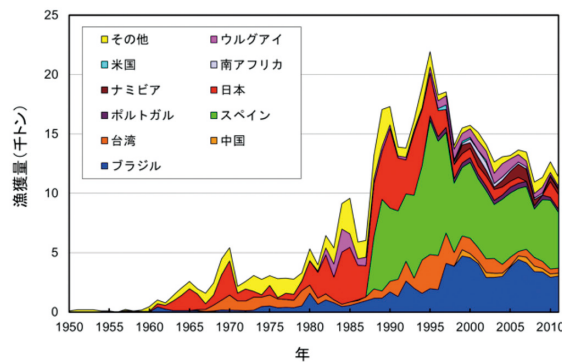
1995年以降は、規制の導入、努力量の他の大洋への移動及び主対象魚種の変更により漁獲量は減少している。1995年以降、日本のはえ縄漁船の主漁場は北大西洋に移り、努力量の減少で漁獲量も大幅に減少し2005年は480トンと過去最低を記録した。2006年には1,090トン、2007年には2,155トンと増加したが、その後減少している。

資源状態

資源評価はICCATのSCRSで、加盟国の研究者が共同で実施する。2011年までのデータに対して、非平衡プロダクションモデル(ASPIC)とベイジアンサープラスプロダクションモデル(BSPM)を用いて資源解析が行われた。個々のCPUEトレンドが互いに相反する傾向を示しており、また多くのCPUEが漁獲量との整合性が悪く、通常解析を行うと両モデル共に収束しなかった。その結果、資源の生産性やMSYの推定値への信頼性が低くなった。これらのモデルは、定量的な推定は困難であるが、資源状態を示唆する上で有用であるため、リファレンスケースとして使用された。これらの結果には不確実性が大きく伴うことから、両モデルで推定された結果と補助的な情報から資源状態を推定した。南大西洋資源の分布範囲は北大西洋資源よりも広いが、1960～2011年の投棄を含む漁獲量は、北大西洋メカジキの同時期の漁獲量の73%と少ない。また、南大西洋メカジキの平均体重は北大西洋メカジキより重い。同じ生産性と仮定すると、これらは北に比べて南の方が、漁獲死亡率が低いことを示唆する。これらにより、現在資源は乱獲状態にないと結論付けられた。



漁法別漁獲量の年推移 (1950～2012年) (ICCAT 2013)



国別漁獲量の年推移 (1950～2012年) (ICCAT 2013)

管理方策

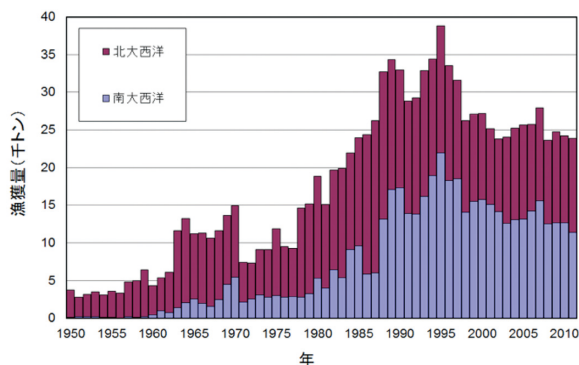
資源評価に使用したデータは、不明な点が多く、それらを明らかにできる十分な調査・研究が行われない限り、漁獲量は現状の漁獲量レベルが維持できると期待される MSY (約 15,000 トン) を超えるべきではないと SCRS は勧告した。これを受けて、ICCAT は 2014 ~ 2016 年の間、各年 15,000 トンの TAC を設定した。日本の割当量は 901 トンである。

資源評価まとめ

- 資源評価は ICCAT の SCRS で実施
- ASPIC により資源評価した結果、信頼性は低いものの MSY は 15,000 トン程度と推定された
- 資源水準はおそらく中位漸増

資源管理方策まとめ

- 資源水準を MSY レベル以上に維持する
- TAC を推定された MSY の約 15,000 トン以下に抑える
- 下顎又長 125 cm / 体重 25 kg 未満の個体の水揚量を 15% 以下に抑えるか、下顎又長 119 cm / 体重 15 kg 未満の個体の水揚量を 0% にする (投棄量の評価含む)

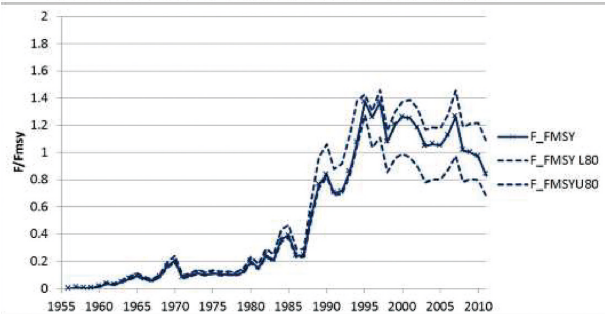
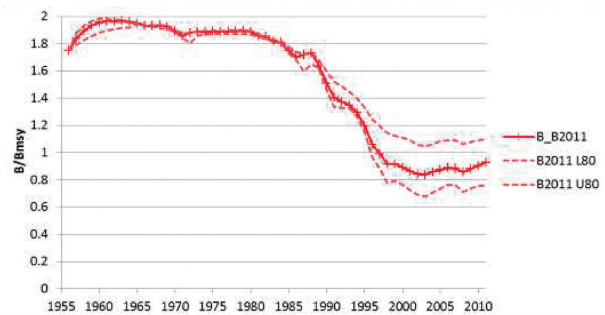


日本の大西洋でのメカジキ漁獲量 (1950 ~ 2012 年) (ICCAT 2013)

メカジキ (南大西洋) の資源の現況 (要約表)

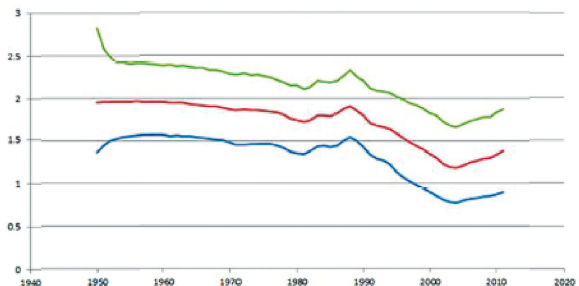
| | |
|-------------------|--|
| 資源水準 | おそらく中位 |
| 資源動向 | おそらく増加 |
| 世界の漁獲量 (最近 5 年間) | 10,180 ~ 12,679 トン 平均: 11,887 トン (2008 ~ 2012 年) |
| 我が国の漁獲量 (最近 5 年間) | 862 ~ 1,600 トン 平均: 1,270 トン (注) (2008 ~ 2012 年) |

(注) この値は日本の近年の漁獲割当量を上回っているが、これは、ICCAT の合意に基づいた過去の漁獲割り当ての未消化分の漁獲が含まれているためである。

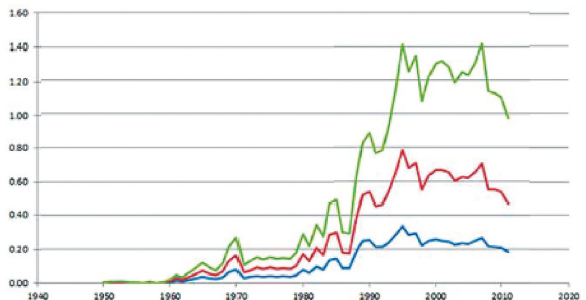


ASPIC で推定された相対資源量 (B/B_{MSY}; 赤線; 上図) 及び相対漁獲死亡率 (F/F_{MSY}; 青線; 下図) (ICCAT 2013) 点線は 80% 信頼区間。

B/B_{msy} BSB South Atlantic



F/F_{msy} BSB South Atlantic



BSPM で推定された相対的資源量 (B/B_{MSY}; 上図) 及び相対的漁獲死亡率 (F/F_{MSY}; 下図) (ICCAT 2013) 赤線は推定値、緑線・青線はそれぞれ上側・下側 90% 信頼区間。